
倉庫番と悪魔

乙狩臼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

倉庫番と悪魔

【Zマーク】

N7272M

【作者名】

乙狩田

【あらすじ】

私は非合法の貸し倉庫の運営で生計を立てている。

大きいものは戦車から小さいものはウイルスまで、どんなやばい物
でも預かり顧客が望む期間保管するのが私の仕事だ。

私は非合法の貸し倉庫の運営で生計を立てている。

大きいものは戦車から小さいものはウイルスまで、どんなやばい物でも預かり顧客が望む期間保管するのが私の仕事だ。

私の目の前のテーブルに一つの瓶が置かれている。

ジャムを入れるときなどに使う、割と大きめの金具でフタを固定できるタイプの瓶だ。

今その瓶にはジャムではなく、悪魔が入っている。

「まさか生きてる内に悪魔を捕むことができるとはね……」

神も仏も信じない私だが実際に自分の目で見たものまで否定するほど愚かではない。

浅黒い肌に真っ黒な角と蝙蝠のような翼を生やした悪魔は、瓶の底に胡坐を搔いて不機嫌そうに私を睨んでいた。

この悪魔、近所の神父さんが悪魔祓いをして封じ込めた奴らしい。

いずれバチカンに送るのでそれまで預かって欲しい、といふことで置いていったのだ。

しかし、悪魔なんてどうやって預かればいい物なのか…。

フタを開けたり瓶を割つたりしなければ出でてくることは無い、と神父さんは言つていたので精密機械用の倉庫か、あるいは美術品を保管する倉庫が妥当かな、などと考えていると、悪魔が瓶の内面を口ンコソと叩いて私に話しかけてきた。

「なあなあアンタ、俺と取引しないかい？」

「取引？」

「ああそつぞ。ijiから俺を出してくれば何でも一つだけ願いを叶えてやる。どうだい？」

「お断りするよ。悪魔と取引しても口クなことにならないところが大昔からの定番だ」

「そりゃあ偏見つてもんさね。舐めた態度を取つたりしなけりゃアスモーテウス様みたいに知恵や力を授けてくれる悪魔だつているんだ。そもそも俺たちキリスト教に信者を奪われて泣く泣く悪者として組み込まれた、元神様つて奴がほとんどなんだぜ？」

そう邪険にするなよ

「まあ人間も色々いるんだから悪魔も色々いてもおかしくはない。

しかし、人間に取り憑くような悪魔をどうして信じられる？

「そりや誤解だつて！」

俺はただキャベツの葉っぱの裏側で昼寝してただけなんだぜ？

それでちょいと寝過ごしたらいつの間にかキャベジと出荷されちゃって、気が付いたら人間の胃袋の中よ。

俺みてえに、ソロモン72柱に数えられるどころか名前すら持たないような悪魔は人間に自由に取り憑いたり離れたりできねえんだ。

必死で出ようともがいてたら宿主の人間まで一緒に暴れて悪霊と勘違いされちまつてさ、教会連れてかれて悪魔祓いされちまつたってわけよ

「そうかそうか災難だつたな」

私はグラスに氷を入れて酒を作り始めていた。

「聞けよー！」

「いや聞いてるから。ロールキャベツはつまいよな

「聞いてねえええー！」

勿論聞いてはいたが、悪魔の戯言に耳を貸す気は無かつた。

それより私の考えていたのは、いいつをじつやつて黙らせて金庫の奥に押し込むか、だつた。

しばし考えを巡らし、一つ妙案が浮かんだ。

「おに悪魔」

「なんじやい」

「そこまで言うなら一つ望みがある」

「おう…言つてみろ…」

「私は今は特に不満のない人生を送つてゐるが、もしどけることならばより充実した人生を送つてみたいと思つてゐる。」

「もしそんな人生があるならば私に『えてくれないかね?』

「お安い御用だ!」

「まあ幸せな人生つつたらまず金だろ! お前を億万長者にしてやる!」

「それは結構だ。今でも自分が満足できる程度の贅沢はできるくらいに収入はある」

「ぬう…じゃあ理想的な結婚相手つてのはどうだ!…?」

「それも結構。異性に興味がないわけじゃないが結婚には特に興味はない」

「権力!」

「却下。人に使われるの嫌いだがそれと同じくらいに人を使うのも嫌いだ」

「世界最高の酒と食い物！」

「却下。酒は酔えればいいし食い物は食えればいい」

「ぬ～～～」

悪魔もどりやらネタが尽きたらしく。思つたよつて引き出しの少ない奴だ。

「さて、もうないならあとは金庫の中でゆっくり考えていてくれ。今度顔を合わせる時にはもつとましな答えが聞かせてほしいもんだ」

「くつ…覚えてろよー。次までにはあんたの納得する人生を考え出してやるからなーーー！」

「期待しているよ」

そいつ言つと私は完全防音の金庫に瓶詰め悪魔を放り込んだ。

さて、次この金庫を開けるときあの悪魔はどんな答えを聞かせてくれるのか、少し楽しみだ。

もし「いい答えだつたら今後の人生設計の参考にさせてもらおう。

勿論、そのときは聞くだけ聞いて「却下」と言つてやるつもりだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7272m/>

倉庫番と悪魔

2010年10月21日23時46分発行